



だい  
第3話 トリボン、はじめてのおしごと

あさ 朝おきると、トリボンはさっそく本をひらきます。そして、読めるところだけ、  
ていねいに、ゆっくり目で追っていきます。

トリボンになりたてのころは、ずかんの虫の写真や、木の実の絵を食べていました。  
最近では、少しずつ字をおぼえ、本に書かれていることを読むだけでおいしく、おなかもここちよくふくらんできます。

きのうは「ごんぎつね」を読みました。かなしいのに、おいしく、おなかいっぱいです。きょうは「ゾロリ」を読みました。げらげら笑い、やっぱりおいしく、おなかいっぱいです。

「ごちそうさま」

と本をたなにもどし、ふと床をみると、段ボールばこに古い紙のたばがつっこんであります。なんだか気になって、トリボンは表紙のつばさをひらき、ページをぱ

さばさ羽ばたかせて、段ボールばこのふちにとまりました。

紙のたばに見えたのは、一冊の古い本でした。表紙ははがれ、ページは破れ、息をふきかけたらもう、ばらばらにこわれてしまいそう。きっとむかし、人気があつた本でしょう。でもいまは、誰の手にもとつてもらえない。トリボンのおなかが、きゅっと鳴りました。

「ようし、まつてろよ」

なにごとにも前向きなトリボンは、図書館の机から、のりとセロテープをもってきました。こんな使うのはじめてですが、先生がいつか、けいじばんのかざりつけを、これで直すのをみたことがあります。

とりかかってみると、思っていたよりよっぽどやっかいでした。テープは足にからまるし、つばさのページがのりでくっつくし。それでもトリボンはあきらめません。段ボール箱のなかの古い本を、くちばしでつくろい、爪であわせ、一冊の本のかたちになおしていました。

そのうち、まわりから声がかかります。

「そこ、せびょうしをおさえながら貼るといいよ！」「テープでとめたすきまに、のりをつければうまくいく！」「そう、そのちようし！」

たなからつぎつぎと声がします。図書館の本たち、また、ほかのトリボンたちが、おうえんしてくれているのです。トリボンはにっこり笑って、足とくちばしを動かしつづけました。いろいろくっつけ終わった本に、ぱぱぱぱ、と羽で風を送ってかわかし、さいごに赤いペンをもってきて、表紙に、おぼえたての字で題名を書きました。

もう、おなかパンパンです。

おひるやす  
お昼休み、トリボンはたなできゅうけい中。男の子がひとり、走ってきて、  
赤い題名の本をみつけました。  
「こんなの、はいったんだ！」  
そして、ぱらぱらとめくってから、  
「借りりよっと」  
先生のテーブルにもっていきました。  
トリボンがなおした本、こんど図書館で、さがしてみてくださいね。ちょっと  
曲がった、赤ペンの字がめじるしです。



せいさく としょかんかつようぶかい  
(制作: 図書館活用部会)